

桜工

2023

目次

理工学部校友会活動報告・日本大学校友会改革について 「外山 勉」 …	2
理工学部の取り組みと活動内容	
理工学部の目指す数学コンセプト—創合知の深化と SFプロトタイプング— 「青木 義男」 …	4
活躍する校友 ～幅広い世界で～ ……	6
佐丸 雄治／坂上 誠／阿部 泰英／三橋 智浩 赤澤 寛行／郷田 博司／島崎 和美／竹内 明男 郭 哲言／藤井 稔／前田 伸二／眞野 敬史 菊原 綾乃／黒 新宏	
創設10周年記念	
まちづくり工学科創設10周年について 「後藤 浩」 …	13
応用情報工学科創設10周年 「細野 裕行」 …	14
令和4年度第8回船橋桜理祭・大型教育研究施設公開	
入試・進路 ……	15
部会だより ……	19
土木／建築／機械／電気／工業化学／交通／精密機械 物理／数学／海洋建築／航空宇宙／電子／まちづくり／情報	
支部一覧 ……	26
支部だより ……	28
事務局だより（事務報告・収支報告等・会費納入者名簿） ……	32
理工学部・校友会NEWS ……	34
令和4年度理工学部校友会奨学生 令和4年度理工学部校友会工科系支部長会 各部会講演会活動報告	
令和4年度桜工賞受賞者一覧 ……	37
教育支援～未来博士工房 ……	38

〈理工学部校友会活動報告〉

理工学部校友会の皆様には、日頃よりご指導ご鞭撻を賜り厚くお礼を申し上げます。

私が会長を拝命したのは2020年でした。コロナウイルス感染症が日本で蔓延し始めたのがその年の2月、6月に書面による理工学部校友会総会での承認を経てのことでした。早いもので、2023年6月には丸3年が経過することとなります。

しかしながら、コロナ禍の収束の兆しは未だ見えず、昨年末より新型変異株が猛威をふるっています。国の政策はウィズコロナを基本に海外からの渡航者も制限なしで受け入れ始めましたが、現状でも1日500人近い方がお亡くなりになっていることを見ますと、早く収束することを願うばかりです。

コロナ禍にあり、理工学部校友会は2020年度と2021年度においては、総会や支部長会等諸会議は書面会議等も活用しながら開催いたしました。2022年度はオンラインによる会議を試行し、6月の総会では常任幹事の皆様とは対面、それ以外の皆様とはオンラインによるハイブリッドの会議を無事に開催することができました。



令和4年度理工学部校友会通常総会
(2022年6月24日ハイブリット開催)

また、10月の支部長会議もオンライン会議で開催し、11地方支部と2職域支部の参加があり、コロナ禍においても支部の皆様が知恵を絞り工科系校友会の支部活動を盛り上げていただいていることがわかり、有意義な会議となりました。しかしながら、その他の意見として、「対面で皆様と情報交換がしたい」という話もあり、私も次年度以降そうありたいと強く思いました。

実際、コロナ感染拡大がやや収まっていた時期には、私や副会長、校友会役員が、3年ぶりに石川県や京都府、秋田県や栃木県、埼玉県、徳島県などの工科系校友会地方支部総会や東京都桜工会（令和4年度に東京都建設桜工会から改称）の職域支部総会にお邪魔をする機会に恵まれ、意見交換できたことは貴重な経験でした。

また、静岡県支部総会にはビデオレターでの参加もさせていただき、コロナ禍でもアイデアを出せば多様な活動ができ



会長 外山 勉

日本大学理工学部校友会 会長
日本大学校友会改革会議 元副座長
(建築学科：S51年卒)

ることに感心した次第です。

その他の活動としては、学生が自らテーマを決めて研究開発を実践する未来博士工房の支援や特別奨学金の援助、就職活動の支援等、校友会役員のご尽力により例年通りの活動を継続しております。



令和4年度日本大学工科系校友会支部長会
(2022年10月7日オンライン開催)



令和4年度日本大学工科系校友会支部長会

なお、2019年度から2021年度まで、台風災害やコロナ禍で理工学部のホームカミングディが開催されなかったわけですが、2022年10月30日開催の理工学部船橋キャンパスウォッチング参加へのご案内を行うことができました。

私も十数年ぶりに船橋キャンパスを訪問いたしました。当日は各学科の学生の研究成果の発表や製作模型の説明を聞きながら、コロナ禍でも頑張っている学生と指導をされている先生方の姿をみて感激いたしました。

また、当日はキャンパスの研究実験施設が開放されており、それらを見学することもできました。

理工学部が所有する設備が日本で最大級のものであったり、最先端の実験を行えるものであったりと、充実した設備

が揃っていることに大変驚いた次第です。

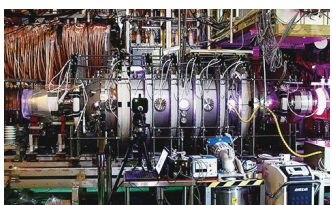
例を挙げますと、土木・建築では 30 MN の圧縮装置や地震の振動実験装置等を備えた大型構造物試験センターがあり、精密機械・電子では、物質の表面や内部を原子のレベルの大きさで、その構造と組織を探ることができる最新の電子顕微鏡などを備えた先端材料科学センター、物理では、原子力の核融合の実現をめざすプラズマ実験施設、機械や航空では、航空機や車両の空力特性や超高層建築の環境風の実験を行う空気力学研究センターなどです。



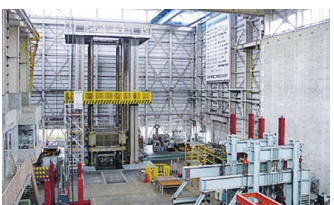
空気力学研究センター
(理工学部ホームページより抜粋)



先端材料科学センター
(理工学部ホームページより抜粋)



プラズマ理工学部研究施設
(理工学部ホームページより抜粋)



大型構造物試験センター
(理工学部ホームページより抜粋)



大型構造物試験棟外観
(理工学部ホームページより抜粋)

立派なハードが先かそれを活かすソフトが先かという議論があると思いますが、船橋キャンパスには日本で有数の最先端技術の研究施設が揃っていることはまちがいありません。

この環境のもとで学ぶ学生や指導される先生方は技術者として幸せだろうと思います。

詳細は、理工学部船橋キャンパスのホームページをご覧ください。皆様も驚かれることと思います。

全国で、特に地方では日本大学の人気がなくなっていると耳にしますが、校友の皆様がインフルエンサーとなって、このような施設と優秀な指導者が揃っていることや、社会の各方面で活躍している日大 OB・OG の話をして頂けましたら、林新理事長が唱えています「NEW・日大」の推進力になるものと思います。

将来の校友会のためにも皆様の諦めない応援をお願いいたします。

〈日本大学校友会改革について〉

さてここで、2021 年に起きました日本大学の不祥事のその後について報告をいたします。

昨年 7 月には、学校法人日本大学として林真理子新理事長と酒井健夫新学長が就任され大学の改革に着手されました。それと同時期に日本大学校友会では 7 月に校友会改革会議が立ち上がり、8 月に校友の皆様から改革に向けたアンケートを募り、会則の見直しや役員の選出、会費の徴収について等のご意見を頂きました。

並行して改革スケジュールとして 2023 年 2 月までに暫定執行部を擁して 2023 年 7 月までに改革案を分科会で協議し、改革案を制定して 7 月より新制執行部を立ち上げる予定を立てました。

11 月 30 日まで計 5 回の改革会議で議論されて決まったことは、令和 3 年 12 月時点において大学の理事職であった者と校友会常任会の構成員であった者については辞任をして、今後校友会役員として復帰できないことを可決し、会則の附則として記載することとしました。そのうえで、12 月の臨時会長・副会長会において役員は一旦辞任し、新たに地方ブロックから選出された支部長 12 名、各学部長 12 名、職域別部会長 5 名の計 29 名を選任し、会長をその中から互選で選び、仮の執行部を立ち上げ、2023 年 7 月までに改革案を協議し、7 月の校友会総会にて正式な新執行部を立ち上げるというものでした。

なお、この 29 名の中には、前述の大学理事職及び常任会構成員であった者は含まれず、会長指名という副会長も会則から削除することが決まり除外しております。

以上のことを 12 月 19 日の臨時校友会総会で承認する予定でありましたが、改革会議の案と学校法人との思惑が若干一致しないところが生じて、臨時校友会総会の開催は延期されております。現在その調整作業に入っているところであり、2 月の臨時校友会総会の開催に間に合わせたいと思っております。

この「桜工 105 号」が発刊される頃には臨時校友会総会が無事に開かれて改革が進んでいることを願っているところです。

皆様のなかには、スピードが遅いのご批判される方もいらっしゃると思いますが、改革会議のメンバーはボランティア精神の下で、二度と同様の不祥事を起こしてはならないという理念を持って真摯に協議しておりますので、皆様の一層のご支援・ご協力をお願い申し上げます。

「桜工」に寄稿するような内容でないかもしれませんが、前回の 104 号で大学の不祥事について述べさせていただきましたので、校友会も遅ればせながら改革に向かっているとご理解頂きましたら幸いです。

最後になりますが、校友諸氏の益々のご多幸とご健勝、理工学部ならびに理工学部校友会の益々の発展を祈念して私の挨拶といたします。今後とも宜しくお願い申し上げます。

(令和 5 年 1 月)

理工学部の目指す教学コンセプト —創合知の深化と SF プロトタイピング—

2022 年は日本大学にとって新たな改革と再生の年になりました。

7 月 1 日より林真理子理事長、酒井健夫学長の新執行部による新たな理事会が発足され、N・N(New 日本大学)のスローガンの元、「学生と共に創る大学」の実現を目指して、年末までの半年間で様々な改革が講じられております。

林理事長は「新たな大学管理運営の基本方針」を策定し、「信頼の回復」「学生ファーストの実現」「永続的運営を見据えた経営基盤の確立」の 3 つの重点項目について大学中期計画の見直しを行い、この過程で「外部有識者との連携強化」「人事制度改革」「広報戦略の見直し」「内部監査体制の強化」「校友会改革の働きかけ」などを図っております。

また、酒井学長は教学優先による本学再生・復興のマスタープランとなる「日本大学ルネサンス計画」を実践するため「教学に関する基本方針」を策定し、教育の質保証として「学生主体の学びの確立」「全学的な教学マネジメントの確立」「学位プログラムとしての大学院教育の確立」「付属校と大学との連携・接続および付属校教育の推進」「大学と社会との関係強化」を推進していくこと、そして教育の基盤となる研究推進の方策として「独創的・先駆的研究」「人々の信頼を得る持続可能な未来社会構築の研究」の体制整備を図るために、「教学推進センター」「教学 DX (デジタルトランスフォーメーション) 戦略委員会」「横断的・学際的取組推進委員会」「教学ダイバーシティ推進委員会」などの設置を進めました。

理工学部では林理事長・酒井学長の基本方針に基づき、2022 年の業績評価指標 (Key Performance Indicator) として「創合知 (創造・融合・知恵) の深化」を掲げました。学部創設 100 年の歴史の中で理工系のあらゆる分野に細分化され洗練されてきた専門教育カリキュラムを構築し、実践的教育を通じて培われる Design (デザイン) と Realization (具現化) を教育の質保証に最も重要な要素と考え、教育・研究を推進しております。また、真の総合大学である本学において理工学部は都心の学生街お茶の水地区に位置するだけでなく、近隣に歯学部や日本大学総合病院、法学部、経済学部があり、学部連携による学際的研究推進が実質しやすい環境です。日本大学は分散したキャンパスかつ学部独自の運営の歴史があり、学部連携の実質化は難しかった訳ですが、サイバー空間では 1 キャンパスに集約された研究・教育の連携・



理工学部長 青木 義男
(機械工学科：S 55 年卒)

融合が可能です。変革の時代・持続可能な社会の実現に向けて自然科学の英知を結集し、人文科学・社会科学分野との共創が不可欠な現在の様々な社会課題の解決や持続可能な社会の実現に向け、日本大学のイノベーション・ハブとしての役割を担うべく、教職協働で取組んでおり、2022 年の成果の一端を紹介させていただきます。

2022 年度日本大学特別研究に採択された医工連携研究「執刀医と手術助手のインタラクションに基づいた次世代型手術システムの開発基盤研究」では、図 1 に示すように理工学

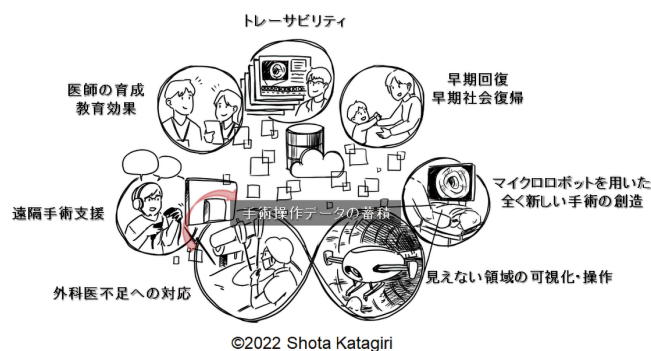


図 1 日本大学次世代型手術システム開発研究



図 2 日本大学災害ソサイエティ構築研究

部が連携中核を担い医学部・芸術学部・文理学部・生産工学部・工学部とでロボット技術やAIを駆使した他に類をみない低侵襲治療、予防医療の先駆的研究を進めています。同様に、国土強靱化研究「日本大学災害ソサエティの構築と災害用パーソナル・アラートの研究開発」も図2のように理工学部・芸術学部・危機管理学部・工学部が連携して、自然災害多発地域と地域連携しながら住民一人ひとりに適切な避難情報を提示するシステム開発を進めております。さらに、日本大学広報にも取り上げられた図3の地域連携研究「しずおか自動運転 ShowCASE プロジェクト」は、理工学部と国際関係学部、静岡県と東急株式会社が連携して2022年の秋から賀茂郡松崎町や沼津市で自動運転コミュニティバスの走行実証実験を開始したものです。コミュニティバスの運転手枯渇など、地域交通の課題の解決に向けた取組です。

以上のように日本大学ルネサンス計画の実践とも言える社会科学課題の改善に日本大学の総合知を活かして取組む学部連携研究プロジェクトが複数開始された1年間でもありました。



図3 静岡自動運転 ShowCASE プロジェクト

一方、学生生活においては、3年間に渡るコロナ禍を通じ、大学生はオンライン授業の長所と短所を理解し、教職員もVRオープンキャンパスやオンラインキャンパス見学会などの経験を通じて、仮想体験や拡張現実の新たな手段を身につ

けました。これら学生と教職員の相互理解を礎にして、今後はスタンフォード大学で導入された「Virtual People」のように、学生個々がサイバー空間での数値実験や概念デザインを自由に実践できる環境整備を進めています。サイバー空間ですと、失敗をしてもやり直しの学びができますし、分野や地域を超えた仲間と意見交換や情報共有がリアルタイムで可能です。実現している先端科学や未来予測だけに止まらず、未知未踏の自然科学に対するSFプロトタイピング*1も実践できます。さらに、理工学部は駿河台・船橋の両キャンパスに国内最大級の研究施設設備が充実していますので、サイバー空間で創造されたプロトタイプの妥当性検証など、現実空間とサイバー空間を合理的に活用する「デジタルツイン」拠点形成も可能な位置づけにあると考えています。

現在、初年次教育ではワールドカフェなど学部横断での授業が実施されていますが、SDGsに貢献する医療デジタル人材やグリーン人材の育成を目指したメディカルサイエンスやネイチャー・テクノロジーなどの学部を連携したりベラルアーツ教育の導入検討も始まっています。ここで重要となるのが、インストラクショナル・デザイン（最適な教育効果をあげる授業やシラバスのデザイン）です。専門科目の授業も含め、学生の興味関心がどこにあるのか、個々の学生の学びの実質化につながっているのか、などを教員が随時把握できる学習ポートフォリオやLMS（Learning Management System）の構築・改善といった教育DX（デジタルトランスフォーメーション）の推進が必須です。大学本部にも教学DX戦略委員会が設置され全学として推進する方針ですが、これらの実を上げるためには在学生との対話も不可欠です。コロナ禍においても定期的な学生との対話集会（日本大学学生FD CHAmmit）も開催され、改善提案などを教職員と共有しております。2023年は学生生活の面においても「学生と共に創る理工学部」の観点から対話を重ね、学生満足度の高い教育環境整備を目指します。

総合大学・日本大学でないと具現化できない研究・教育の取組をさらに推進するため、2023年も理工学部は日本大学のイノベーション・ハブとして貢献し、創合知の深化に貢献できればと思います。校友の皆様のご健勝ご多幸と共に、理工学部へのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

*1: SF 的発想をもとに物語を描き、様々な視点・観点からプロトタイプ（試作品）を創って企業のビジョンやミッションの策定、新規事業の創出などのアイデアに生かし熟議する手法

教育支援 ～未来博士工房～

令和4年度未来博士工房学生博士賞表彰式および成果報告会

日時：令和5年3月18日（土）13時～16時30分

開催形式：ハイブリッド（対面＋オンライン）

場所：対面 駿河台校舎1号館6階CSTホール

※録画して、後日オンデマンド公開予定

★ブリッジ工房

ブリッジ工房は、大学で学ぶ材料学や構造力学などの理論式を、実際の構造物ではどのように使われるのか体験するために設立されました。

その活動範囲は、各学年に合わせて、簡単な模型製作から、実際に人が使用するベンチの設計・製作、オープンキャンパス等で実際に渡れる橋の設計・製作を行っています。さらに、自治体やNPO、海外大学と連携して、橋の清掃や維持管理手法、デザインワークショップなど幅広い分野で活動しています。



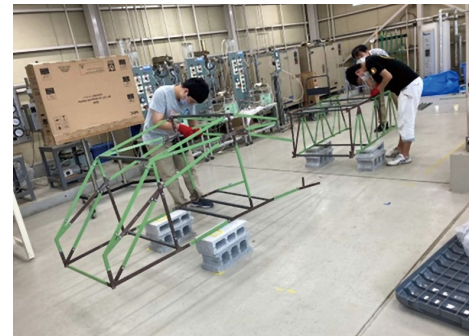
オープンキャンパスでの橋の設計・製作

★交通まちづくり工房

未来博士工房「交通まちづくり工房」では、地域が抱えている交通問題を自治体や地域の方々などと一緒に考えて、解決を図ろうとする実践的な取り組みや計画から制作までの行程を通して“ものづくり”の楽しさを経験する活動などを実施しています。現在、地域活性化プロジェクト、交通安全プロジェクト、国際まちづくりプロジェクト、コンクリートカーブプロジェクト、鋼橋プロジェクトの5つのプロジェクトで活動をしています。



打合せの様子



活動の様子（鋼橋プロジェクト）

★フォーミュラ工房

2022年9月に3年ぶりとなった動的競技を含めた全種目開催の学生フォーミュラ大会にフォーミュラ工房（円陣会）が参戦し、総合19位（全63チーム）でした。ほぼ1年掛けてマシンを1台設計・製作・調整する過程で、校友が居られる会社などからの支援も頂けたことを感謝いたします。引き続き2023年大会に向かって活動を続けておりますので、ホームページやSNSなどで見守って頂けたら幸いです。



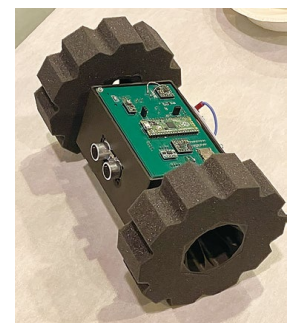
タイムアタックするマシン



大会スポンサーパネルの前でマシンとメンバーの集合写真

★ロボット工房

令和4年度のロボット工房は昨年から引きつづき活動している2つのテーマに加え、3つのグループが新たにテーマを設定し活動を始めました。テーマはロボット、宇宙エレベーター、惑星探査ローバー、エネルギー、ブレインマシンインターフェースなど多岐にわたります。スタートアップのテーマが多い中、今年度は惑星探査ローバープロジェクトの種子島ロケットコンテストへの書類選考通過や、文理学部と合同のNU EXPOへの展示といった成果を残しました。



惑星探査ローバーチーム

教育支援 ～未来博士工房～

★航空宇宙工房

航空宇宙工房では、コロナ禍による制限で断念してきた競技会への出場が徐々に再開されてきました。人力飛行機プロジェクトでは、3年ぶりの鳥人間コンテストに出場を果たしました。また、種子島ロケットコンテストが4年ぶりに対面開催され、日大ロケット研究会がインテリジェントロケット部門で準優勝を果たしました。技術の伝承等まだ課題は残されていますが、学生が工夫を凝らしながら前に進んでいく姿は頼もしくもあります。



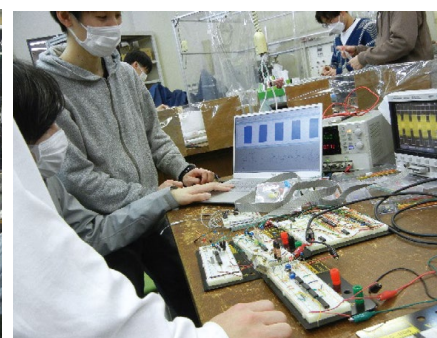
鳥人間コンテスト出場メンバー



種子島ロケットコンテスト競技風景

★PC工房

PC工房は、電子工学科カリキュラムとも深く連携しており今年度も1～3年生の学科学生が300人規模で活動しました。特に3年生は約半年をかけチームで設計開発を体験する「PBL（課題解決型学習）型実験」を実施しました。本年度は「壁を越える10符号簡易非有線通信システムの製作」という仕様のみが課され、電波・音波・光など様々な手段で“壁”を越え情報を伝える挑戦に30チームが開発競争を繰り広げ、それぞれ個性的な通信機を完成させました。



PBL型実験実施状況

★物理学プロジェクト工房

物理学プロジェクト工房では、「物理学プロジェクト実験」をコアとし、工房関連科目により身につけた物理学の基礎的能力を実践するためのスキルを獲得することを目指しています。中核となるのが3年次に設置された「物理学プロジェクト実験」で、課題の創生・実験・成果発表の一連の活動を通じ、実験やデータ解析、シミュレーションなどのスキルを習得、さらにプロジェクトの管理/運営能力、リーダーシップ・協調性などを身につけます。



ハイブリット型成果報告会



実験作業風景

★共通工房について

未来博士工房の共通工房は耐震改修で旧習志野高校の校舎で活動していましたが、4月から船橋キャンパス内の5号館に復帰してパワーアップした環境で活動ができるようになります。

習志野高等学校校舎側に車椅子で入れるスロープが新設され、入口から展示・談話室、多目的室、工房事務室、工作加工室1、2の部屋で構成されています。

新しい共通工房の特徴は展示・談話室を活用して工房に所属する学生同士や周辺住民の方々との交流が出来ることです。

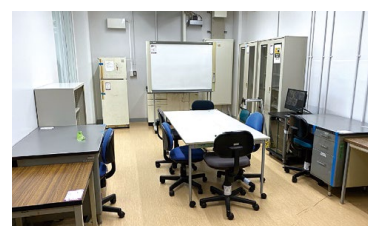
お昼休みになると製作した作品を持ち寄って自慢しあったり出来る様な場所が出来ればと思います。4月から学生主導で様々なプロジェクトがスタートするのが楽しみです。



工作加工室



展示・談話室



工房事務室

東京・お茶の水橋 都電遺構



(校友会誌委員 一柳 龍伸)

令和 2 年 1 月、お茶の水橋 (2 代目 (現橋)、1931 年竣工) の耐震工事で、橋上のアスファルト舗装の下から戦時中に廃止された路面電車 (都電) の軌道敷 (御影石を使用)・レール (溝付きレール (英国製) と溝なしレール (官営八幡製鉄所製))・枕木 (鉄製) が当時のままの状態で見つかりました。溝付きレールは曲線部内側に、溝なしレールは曲線部外側に使用され、曲線部は英国産と国産が 1 対となるレール構成でした。橋上軌道のため重量を軽くするためにアングル材を合わせた鉄製枕木が使用されました。

この都電は 1904 年から 1944 年まで運行されたものであり、廃止されたレールは軍需工場や他路線に転用されるのが一般的であるため、発見された都電遺構は極めて貴重なものといえます。

令和 3 年、この貴重な都電遺構の一部をお茶の水橋を管理する千代田区から譲渡いただき、令和 4 年本学部 CST ミュージアムに敷設されました。

CST ミュージアムの屋外では軌道敷・レール・枕木を路面軌道として復元展示し、屋内では希少な溝付きレール等を展示しております。路面軌道や溝付きレールの保存例は国内でもめずらしく、当時の都電を感じることができる希少な展示資料です。

※橋梁補修補強工事「お茶の水橋」の受注者である鉄建建設株式会社と調整し、鉄道遺構の運搬及び敷設にご協力いただきました。

令和 4 年 11 月



編集後記

2020 年 2 月新型コロナウイルス感染症が日本で蔓延してから 3 年になります。巻頭言として、このような異例の状況の中で 2020 年会長として就任された新会長によるコロナ禍における理工学部校友会の活動報告、また、2021 年の日本大学の不祥事が起きその後の対応等についての報告。理工学部長からは日本大学並びに理工学部の改革への基本方針をはじめ具体的な取り組みについて紹介していただいた。

本号の特集としては「活動する校友～幅広い世界へ～」というテーマで海外お相手に活躍されている方々の様子や国内で活動されている方々の様子を寄稿していただいた。

2013 年に設置されたまちづくり工学科及び応用情報工学科が若い学科として 10 周年記念を迎えたことの報告。

恒例の「部会だより」では各学部コロナ禍の中でもオンラインを活用するなどいろいろ工夫しての活動についての様子が各部会から報告があった。

振り返って見ますとコロナ禍の中、3 年間編集委員の対面による会合をほとんどできずオンラインによる会合となりましたが、なんとか校友会誌として校友の皆様へ情報をお届けすることができたのではないかと考えています。

桜工の編集に当り、コロナ禍という中で、ご寄稿賜りました皆様やご協力いただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

(文責:角 耀)

会誌委員会 (委員長 ◎、副委員長 ○)

◎佐藤 信 ○角 耀 ○安部 明雄 間宮賀津仁 野口 光徳 大貫 浩嗣 山崎 栄介 富永 茂
宮城 徳誠 一柳 龍伸 関口 優紀 浮谷 基彦 出口 真一 滝瀬 敦士 小林 明雄 居駒 知樹
佐々木芳樹

- 住所表示・勤務先・TEL 番号等の変更は事務局までご連絡下さい。
 - クラス会等に「桜工」をお送りいたします。(実費&送料が必要です)
 - クラス会の様子を桜工「クラス会だより」に掲載しませんか？
- 会合名・卒年・学科・開催日時・場所・参加人数を含めお知らせください。
*各詳細・問い合わせ等は理工学部校友会事務局までご連絡ください。

〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台 1-8-14
日本大学理工学部内
日本大学理工学部校友会事務局
TEL : 03-3259-0650
FAX : 03-3293-1370 (石黒・田中)
ホームページアドレス
<http://www.koyukai-cst-nu.jp/>
メールアドレス
alumni@koyukai-cst-nu.jp

令和 5 年度通常総会開催予定

日 時 : 令和 5 年 6 月 30 日 (金)

会 場 : 未定

令和 5 年 3 月 25 日発行

日本大学理工学部校友会

(日本大学工科技校友会)



編集・発行者 佐藤 信
〒101-8308
東京都千代田区神田駿河台 1-8-14
電話 03-3259-0650
FAX 03-3293-1370
印刷所 株式会社 愛甲社